起て！全國の勞働者!!!

軍縮問題に對する宣言！

一

大仕掛の殺人、大仕掛の生産破壞それを目的とする軍備だ。そんなものは吾々勞働者に何の用もない。縮少なんど言はずに、全部廢して了ひたい。が直にそれが出來ないなら、縮少でも、しないよりは勝だ。

二

軍縮をやれば失業者が増える、分りきつたことだ。軍需工場に失業者の殖えることは、やがて吾々勞働者全體を不安に陷入れる、これも分り切つて居る。しかし、それかと言つて吾々は決して軍縮に反對しない我々勞働者階級は他の何れの階級にも増して軍備の存在を惡むからだ。

三

然るに「軍縮の結果は失業者が増す故に勞働者は之に反對する」なんど言ひ觸らす連中がある。それは軍閥者流か資本家、でなければそれ等の手先を承はる勞働ブローカーの徒輩に定つて居る。純な勞働者は決してそんな宣傳に乘りつこなしだ

四

吾々勞働者は今の經濟組織、營利本位の生産方法の存續する限り、軍備のある無しに係はらず年が年中、生活不安に暴露されて居るのだ。熱狂的好景氣に次ぐ恐慌、同時に行はれる生産破壞と工場閉鎖と事業縮少と、それは資本主義に固着する因果なんだ。だから失業の不安を去るには今の生産組織を根本的に變へる外全く道はないのだ。

五

それにだ、軍縮は國の都合でやることなのだ。失業手當を支出する十分の責任が國にあるのだ。吾々は正當の權利として之を要求しさへすればよいのだ。吾々の要求が通る通らぬは素より疑問だ。が、通るも通らぬも一に吾々の腰の强さ如何にあるのだ。腰が强ければ通る、弱ければ通らないのだ。

六

軍縮は國費の大節約だ。從つてウンと金が浮いて來る。腰さへあれば通る見込は十分あるのだ。たゞ吾々が愚圖々々して居ると、戰時に於て飽なき儲けに一段と其の資本的組織力を逞しうした、彼等資本家どもの懷を更に肥らするやうな結果に終らないとも限らない。

七

然らばどうすれば腰が決まるか、押しが利くか、それは團結の偉力による外ないのだ。今度の場合は個々の資本家に對してではなくて全體の資本家に對するのだ。吾々の團結も個々別々、離れ離れの對抗ではなしに、一切の情實や利害やを超越して此際全勞働者の完全なる總聯合を組織し、大同團結の偉力によつて、强力なる、かの資本組織に當らなくてはならない。

八

組合を有するものは此際題目を一にして聯合せよ、組合を有せぬ勞働者は此際直に組合を組織せよ、而して全勞働階級の名に於て其の行動を共にせよ。

大正十年十二月

勞働組合同盟會

〔本部〕＝東京市外西大久保五一九

造機船工勞組合　日本機械技工組合　純勞働者組合
印刷工組合信友會　日本交通勞働組合　日本鑛夫總同盟
教員組合啓明會　新聞工組合正進會　時計工聯合會

本會の目的は
一、既成組合の聯合を促進すること
二、組織なき勞働者に組織を與ふることにある
（御用事あらば下記本部に御照會下さい）